

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

発生に注意！（5月）

ぶどう

クワゴマダラヒトリ

- ・成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵します。
- ・主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬します。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害します。
- ・初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいため初期防除に努めましょう。
- ・発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布しましょう。

もも

せん孔細菌病

- ・春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じます。
- ・病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染します。
- ・枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要です。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに切り除き、園外で適切に処分しましょう。
- ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行いましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。

たまねぎ

べと病

- ・降雨が多いと発生が急速に拡大します。
- ・被害株は、ビニル袋等に入れて処分しましょう。
- ・発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布しましょう。
- ・発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布しましょう。



クワゴマダラヒトリの幼虫※



せん孔細菌病春型枝病斑



べと病の症状

次回の情報は5月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(5月)

果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			ハスモンヨトウ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			アブラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		

野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
			アザミウマ類		
トマト		葉かび病・すすかび病			
		灰色かび病			
たまねぎ			コナジラミ類		
			ネギアザミウマ	べと病	

野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類			アブラムシ類		

水稻

種子消毒、育苗

種子消毒

- ◆薬剤を使用する場合は、テクリードCフロアブル、スポルタックスターナSEなどで消毒する。消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。
- ◆温湯消毒の場合は、60℃の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。

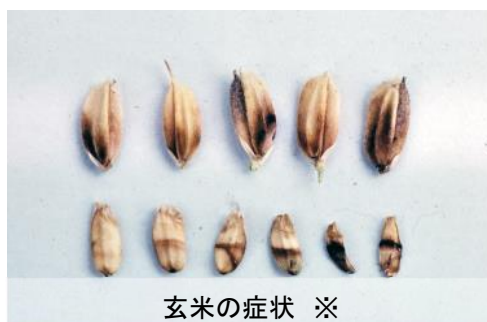
育苗準備

- ◆育苗箱などの資材は使用前にケミクロンG、イチバンなどで消毒する。

もみ枯細菌病（苗腐敗症）



苗腐敗の症状



玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30℃以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

苗立枯病



フザリウム菌による苗立枯れ *

防除のポイント

- ◆育苗箱での発生を認めたら、ダコニール1000（リゾプス菌）、タチガレエースM液剤（ピシウム菌、フザリウム菌）、バリダシン液剤5（白絹病菌、リゾクトニア菌）、ベンレート水和剤（トリコデルマ菌）などをかん注する。

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子（分生孢子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫*

特徴

- ◆幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。

防除のポイント

- ◆幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

もも

せん孔細菌病



せん孔細菌病の春型枝病斑

特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。
- ◆風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。

令和3年3月16日発出の防除情報「せん孔細菌病に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0303senkou.pdf>

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）に**モスピラン**顆粒水溶剤、**アディオ**ン乳剤、**ダントツ**水溶剤、**テッパン**液剤などを散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあります、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

令和2年5月13日の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」についてもご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj_voj_youhou/R0205kubi_aka.pdf

温州みかん

アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

特徴

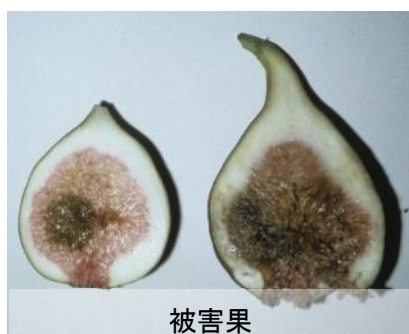
- ◆新梢や葉裏に集団で寄生し吸汁する。
- ◆被害にあった葉は小さくなったり、巻いたりする。
- ◆排泄物が原因となり、すす病が発生し汚れる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、コルト顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤、スタークル・アルパリン顆粒水溶剤等を散布する。

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆スピノエース顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

野菜

なす(施設栽培)

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。
- ◆20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、パレード20フロアブル、ネクスターフロアブルなどを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

野菜

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



すすかび病被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆グレースシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。

たまねぎ

べと病



べと病の症状

特徴

- ◆降雨が多いと発生が急速に拡大する。

防除のポイント

- ◆被害株は、ビニル袋等に入れて処分する。
- ◆発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

令和3年4月26日発出の防除情報「たまねぎのべと病に引き続き注意！」についてもご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj_yoj_youhou/R304tambegi_beto.pdf

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ成虫 ※

特徴

- ◆成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC、グレーシア乳剤、プレオフロアブルを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

野菜類・花き類

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**アドマイヤー顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマトなど）、**コルト顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど）を散布する。